

シカが増えたわけ

夕暮れ時、寅やん宅の居間にて。とちぎテレビ「奥日光の自然を探る」を見ながら。

ハツイ：あれ、奥日光じゃ昔はシカが少なかったんだってよ。

寅次：そうけ。こないだ行ったときは、車の横さうろうろしてたけどもなあ。

ハツイ：なんとかアオイつつう花が食われっちゃったってよ。

寅次：そらシラネアオイだんべ。ササも食われて減っちゃまったって聞いたど。

ハツイ：したって、なーんでそんなに増えちまったんだんべ。

寅次：わーがんねきつとも*、大変だなや。

*わーがんねきつとも：わからないんだけども

鳥
獣
新
聞

第10号
ざくざくカキ氷号

栃木県のシカをめぐる問題

栃木県では1990年代にシカが急増し、農林業被害の急増や奥日光の貴重な植物の食害など、大きな問題となりました。



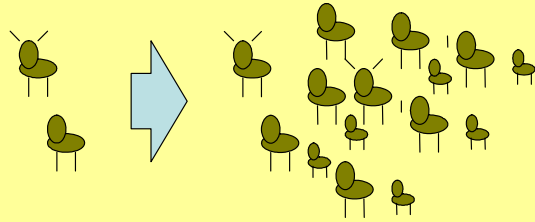
冬を越した親子のニホンジカ（奥日光千手ヶ原にて）



なぜシカは増えたのでしょうか

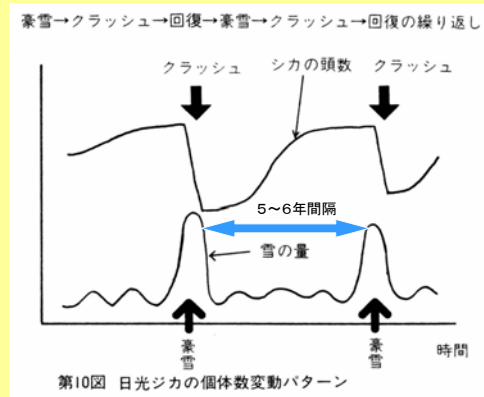
増えやすいシカの生態

シカは群れで生活します。また、群れごとのナワバリもありません。このため、餌さえあればどんどん増えていきます。



積雪の減少

これまで、5～6年に一度の大雪の年に、餌が食べられないことによるシカの大量死（クラッシュ）が発生し、数のバランスが保たれていました。しかし、1984年の冬以来、大雪が降っていません。



丸山直樹(1986)に加筆

このほか、天敵となっていたオオカミが絶滅してしまったことや、狩猟者が減少していること、緑化事業が進んでシカの餌となる植物が増えたことなどが原因として考えられています。



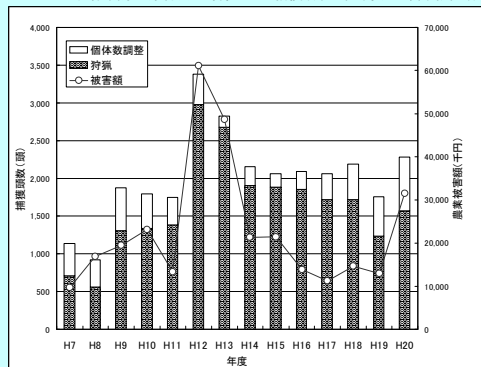
栃木県の対策

シカ保護管理計画の実施

栃木県では全国に先駆け、平成6年度よりシカ保護管理計画を策定し、捕獲を中心とした総合的な対策を実施しています。

特に平成12年度からの狩猟規制の緩和によって捕獲数が増加しており、一部の地域では生息密度の減少が確認されています。

ニホンジカ個体数調整(駆除)及び狩猟による捕獲頭数の経年変化と農業被害額



発行：鳥獣新聞編集部（栃木県自然環境課内）

TEL028-623-3261 FAX028-623-3212

ご意見、ご要望、情報などお待ちしております。

無断転写、複製、転送、公開、掲示、配布など大歓迎！

